ひとりで生きる（1991）

UNE VIE INDEPENDANTE
AN INDEPENDENT LIFE

メディア　映画
ジャンル　ドラマ
製作国　フランス／ロシア
時間　97分
初公開日　1995/05/13
公開情報　ユーロスペース
リバイバル　2009/11/07［エスパース・サロウ］

【解説】

世界中から絶賛で迎えられた「動くな、死ね、甦れ！」から２年。主人公ワレルカも１５歳、少年期に別れを告げようとしていた……。前作はまるでカラーのように色味豊かな白黒だったが、今回はぐっと色調を抑えたカラーを駆使して、長い冬に閉ざされる極東ロシアで生きる少年の心中をじわりと滲ませる。

町には新たな軍の駐屯があった。母は新年の宴に少年の可愛がっていた豚を料理。目の前で悲鳴をあげる“彼女”に涙する少年に同情するのは、前作の最後に死んだガリーヤの妹ワーリヤだけだ。夜空に気球で革命の英雄たちの旗が揚げられ、子供たちの集まる中、二人は無邪気に追いかけっこをする（サーチライトの乱舞が美しい）。転んで鼻血を出すワレルカの顔を覗き込むワーリヤに少年は照れて唾を吐きかけるのだった。二人の通う職業訓練校を牛耳るレックスに呼び出されるワレルカ。一人の少女が輪姦されており、参加を強要され拒む彼と少女だけがなぜか校長に咎められ、怒った彼は退学になる。色情狂の少女は校長にも犯される。ワレルカには日本人抑留者の友人ヤマモトがいた。運命に耐えるのみの彼が少年には不可思議だった。ある日、納屋の中で彼はワーリヤと結ばれる。が、少女は彼が亡き姉を忘れられないのを知っていた。ワレルカは故郷を捨て、アムール河を北上する旅に出る。未知の叔母を訪ねて、隣人ソフィアの家に転がり込む。その誘惑の眼差し、そして美しい娘タマラの存在。造船所で働くことになったワレルカは、護送される囚人の中にヤマモトを見かける。スターリン暗殺未遂の罪で……。ソフィアの家族とモスクワへ行こうという時、ワレルカはワーリヤと再会。が、彼女からの手紙は全て捨てていた彼だった。それでも迷った挙句、彼女をカムチャツカ行きの船に追うのだが、乗船は許されず、船は出航する。と港の無線に、女の子が身を投げたとの連絡が入る……。前作に較べれば、表現にある種のあざとさを感じなくもないが、それでも、厳粛な風景に重ねるように見事に描かれる少年の心のうつろいには、涙を禁じ得ない。

【クレジット】

監督　ヴィターリー・カネフスキー　Vitali Kanevsky
脚本　ヴィターリー・カネフスキー　Vitali Kanevsky
撮影　ウラディミール・プリリャコフ　Vladimir Brilyakov
音楽　ボリフ・リチコフ
出演　ディナーラ・ドルカーロワ　Dinara Drukarova
　　パーヴェル・ナザーロフ　Pavel Nazarov

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.